

# 結

～人と人をむすぶ

丹嶺的時間～  
秋だより



学校法人 武庫川学院 北摂キャンパス  
丹嶺学苑研修センター



## 公共交通機関でお越しの方

- 大阪・福知山方面より
  - ・JR 新三田駅より神姫バス 62 番で「上津合～神鉄道場駅」行  
人形波橋下車 徒歩 15 分
  - ・JR 三田駅・神戸電鉄三田駅よりタクシーで約 15 分
- 神戸方面より
  - ・神戸電鉄道場駅より神姫バス 62 番で「上津合～新三田駅」行  
人形波橋下車 徒歩 15 分

## 車でお越しの方

- 中国自動車道神戸三田 IC より車で 5 分



学校法人 武庫川学院 北摂キャンパス  
丹嶺学苑研修センター

〒651-1512  
神戸市北区長尾町上津4553-1  
Tel 078-986-7381  
Fax 078-986-5098  
E-mail tanrei@mukogawa-u.ac.jp  
HP <http://www.mukogawa-u.ac.jp/~tanrei/>  
記載の情報は2016年7月31日時点のものです

# トレーニング・プログラムの新たな取り組みについてインタビューしました。



トレーニング・プログラムの改革についてお話を聞きました。

教育学部 教育学科  
教務部常任委員  
北口 勝也 教授

今年から改革されたトレーニング・プログラムのねらい

平成27年度に、教務部を中心としたワーキンググループを設置し、初年次教育の中核をなす初期演習の一部であるトレーニング・プログラムの検討を開始しました。

ワーキンググループでは全学で統一したプログラムの目的(※1)と目標(※2)をより明確にし、初期演習の科目目的到達目標と連動するように考えました。また、目的目標を達成するためにパッセージプログラムと学科オリジナルプログラムの選択制を学院に提案し、本年度より新しいトレーニングプログラムがスタートしました。

特にパッセージプログラムの内容は、学科で決められた課題に沿って、1泊2日の研修の中で近ごろGW(グループワーク)を中心に「テーマ」「発表内容」「発表方法」等についてディスカッションを行い、最終日に10分間でプレゼンテーションを行うつもりです。全体を通して学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけて、ディスカッションを通じて自分の意見を表明し、発表する力を育てるプログラムになっています。

学生にどのような気持ちでトレーニングプログラムに取り組んでほしいか

各プログラムにおいて、自分の役割を理解し、実行するとともに仲間とGWなどに取り組み、学科目標の達成とそこに至るまでのプロセスから様々な事を学んでほしいと思います。

プレゼンテーションでは、真摯な議論の場になるように緊張感を持ち、自他ともに良い点や改善点を取り上げて、お互いが学び合える機会になると本望です。また、研修中は担任や仲間とのコミュニケーションを意識するとともに、スケジュールを把握して、時間の配分を考え、各自の役割を理解した上で、積極的に研修に取り組んでいただきたいです。

(※1) 履修を共にする体験の中で、他者と円滑なコミュニケーションを築きながら主体的・協力的に実行力を持つ。  
(※2) ①自ら主体的に考え、行動することができる。②自分の意見を整理し、他者に表明できる。③他者と円滑な人間関係を築き、協働することができる。

音楽学部の専門性を活かして、グループでアカペラ(合唱)に取り組み、コンテスト形式で発表を行いました。  
音楽専攻学生をリーダーとして、限られた時間の中で初めて歌う作品を作曲仕上げ、2日目には演奏するというスケジュール準備中はグループの中でさらにグループに分かれて練習をして時間を効率的に使い、スマートフォンの楽器アプリを活用するなどの工夫が見られました。また2日目は朝食前の時間も練習にいそむという集中ぶり、発表時には、全員で採点用紙を使って詳細に合いました。



1年担任にトレーニング・プログラムについてお話を聞きました。

音楽学部  
応用音楽学科  
一ノ瀬 智子 准教授

実際にプログラムを実施してみても、学生の変化を感じたこと

個々の学生の体験や受け止め方や変化はそれぞれなので一概には言えませんが、ざっくりとした印象をいえばグループで履修を共にし、共同作業を経験することによって、一気に大学やクラスが居場所となり、いい意味で初めしさが無くなったような気がします。

今後の授業で活用できそうだなと思ったこと

当たり前のことのようにありませんがGW(グループワーク)や発表においては、学生の興味関心に沿ったテーマ設定や枠組みや目標、基本的な手順や制限時間などを明確にすることが大切で、そこを抑えておけば学生たちの自発的なアイデアや工夫によって、実りのあるプロセスと結果につながることを改めて認識しました。



トレーニング・プログラムに参加した学生に話を聞きました。

音楽学部 演奏学科1年  
山岸 万美花さん(左)  
音楽学部 応用音楽学科1年  
高木 美桜さん(右)

トレーニング・プログラムを受講してみたい(山岸さん)

最初は正直、面倒だなと思っていました。

GW(グループワーク)やキックオフ(※3)、飯食炊さん等をグループで取り組んでいくと、普段話さなかった人とも自然と話が弾み、普段とは違った楽しさがありました。

この研修に参加したことで、今の自分が出せるようになり、1日目の夜には、大演と大応のGW班で文化祭に出発しようという話が盛り上がりました。またキックオフでは指通しの方との掛け合いが楽しかった。もっとキックオフの時間が長くていいかなと思いました。

達成感を感じた瞬間は(高木さん)

私たちの学科は、アカペラ(伴奏なし)で歌うことという課題を大演・大応の合同グループで行いました。

プレゼンテーションまでは、いい作品にしようというグループで積極的に意見を出し合い、先生からアドバイスをいただいたながら練習に励みました。本番の発表では不安でしたが、なかつたのですが、自分たちの力を出し切った結果、みんなが1つなれたと感じ、周りから評価ももたらした瞬間に達成感を感じることが出来ました。

(※3) キックオフ  
楽しいゲームで、学生相互や先生とのコミュニケーションのきっかけを作ります。心の壁を低くすることで、研修の様々な場面で自分の意見を打ちやすくなると思います。